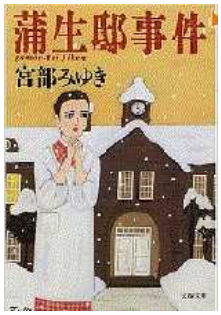
「 Stay home, read now!　今こそ、本を読もう！

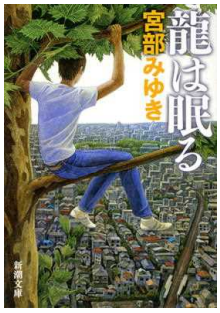
～図書部による連続ブックトーク」　No.5

■宮部 みゆき　（みやべ　みゆき）

宮部みゆきといえば、どんな作品を思い出しますか？映画にもなった「模倣犯」、多重債務問題を扱った「火車」、時代物や青春物、さらにはゲーム、ファンタジー系…大ベストセラー「本格推理作家」でありながら、宮部みゆきの「幅」は広い。で、今回はこれも宮部の十八番である「超能力物」（ＳＦ）の中から３作品と、その関連作品をいくつか紹介しましょう。



★「蒲生邸事件」（文春文庫）…時間旅行能力者の平田と知り合った受験生・孝史がホテル火災から逃げ出した先は、なんと２・２６事件前夜の東京。彼が世話になる陸軍大将・蒲生憲之の屋敷では蒲生家の人々や平田、お手伝いの「ふき」らと交流することになるが、これまでは「日本史の知識」でしかなかった2・２６事件を、孝史は疑似体験することになり…あとはお楽しみ。



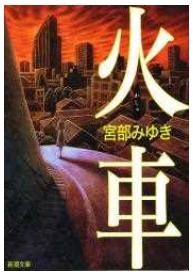
★「龍は眠る」（新潮文庫）…主人公の雑誌記者は、ある事故から少年と知り合うが、彼は人や物に触れることで心を読む能力を持っていた。その能力に対して周囲はどのように体処すべきなのだろう。ミステリーベースで話は展開する…

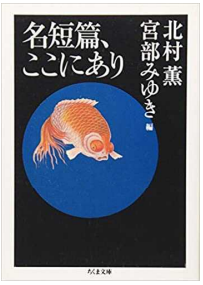
同じ能力に関わる小説としては筒井康隆の「家族八景」シリーズ3部作（新潮文庫）も必読です。火田七瀬は人の心を読めてしまう精神感応能力者の女性で、家政婦として様々な家庭で働くが、どの家庭にもそれぞれの事情があって……

★「クロスファイア（上・下）」（光文社文庫）…これはかなりのハードボイルド。念力放火能力をもつ青木淳子はある事件を期に「復讐の鬼」と化す。残酷な犯罪に対して、これもまた残酷と言える「制裁」が行われる。それでも、自分は「装填された銃」であり、それが自分の存在意義のはず…そう確信する淳子が揺らぐことはない。が、ある目標を追う中、ついに彼女に危機が迫り…この作品を気に入った読者は、この話の前日談にあたる短編「燔祭」が「鳩笛草」（光文社文庫）という1冊の中に他の超能力物何話かとともに収録されています。また、このモチーフになったと宮部も認めている、同じく念力放火能力をもつ少女の話「ファイアスターター」（スティーヴン・キング著、新潮文庫）も傑作ですので、お勧めします。

◆超能力物の小説や漫画、映画に於いて「ハッピー・エンディング」というのは、実はあまりありません。ただ、ここに取り上げた３作品は、夢中で読めるおもしろさと、それぞれ異なったテイストのエンディングが楽しめると思います。

◆上記以外のいくつかのお勧め作品を下に紹介しておきます。著作以外にも、驚異の読書家で作家の北村薫氏との共編による「名短篇、ここにあり」（ちくま文庫）などのアンソロジー（短編集）のシリーズも必読です。





お勧めのキングと筒井康隆作品↓